

# οὐρανός

TOHOKU GAKUIN UNIVERSITY

ウーラノス

情報化がますます進展し、私たちの生活範囲や活動対象は、地域や日本という範囲から地球規模へと拡大しました。115年の歴史と伝統にしっかりと根ざしつつも、時代や社会のグローバルな要請に応え得る教育機関として、さらに前進したいものと考えております。

## Vol.7

JUNE 2001

 東北学院大学 広報誌  
TOHOKU GAKUIN UNIVERSITY

ウーラノス

「ΟΥΡΑΝΟΣ(ウーラノス)」は、「天」を意味するギリシャ語です。イエス・キリストは「心を入れ替えて子供のようにならなければ、決して天の国に入ることはできない。自分を低くして、この子供のようになる人が、天の国でいちばん偉いのだ(マタイ18:3~4)」と語っています。この箇所にも οὐρανός が用いられています。

## CONTENTS

■特集 NEW WORD T.O.U

対談  
世界の中の日本—異文化の掛け橋に…①

- 東北学院大学におけるITの応用…⑤
- 学生たちは、今……………⑥
- 協奏、そして共創へ……………⑦
- 学長室より……………⑧
- 大学院より……………⑨
- 学部より……………⑩
- 国際交流センターより……………⑬
- 研究所・センターより……………⑬
- 図書館より……………⑬
- 就職部・入試センターより…⑮

# 世界中の日本 —— 異文化の掛け橋に

## 対談者

和田博義氏  
昭和43年に本学経済学部経済学科を卒業。  
東京海上火災保険㈱に入社。ニューヨーク、ロサンゼルス、ロンドンでの駐在を経て、現在、常務取締役 海外本部長。

倉松 功 本学学長

## 司会者

佐々木哲夫 本誌編集委員会編集長

## 自身の形成

- おいたち -

和田 私の出身は宮城県遠田郡田尻町で、高校は古川高等学校、そして東北学院大学と地元で育ちました。入社後の勤務地は新潟と山形で、その後東京に転勤になりました。山形支社に勤務していた時に、海外研修生の試験を受けて合格し、海外勤務の道が開けたのです。

司会 大学時代を振り返ってのお話をお聞かせください。

和田 決して優等生ではありませんでしたが、大学時代は最も自由で有意義な時期でした。英字新聞会に所属し、「THE FAIR GAKU」という英字新聞の編集に力を入れていましたので、大半はクラブ活動に時間を費やしていたような気がします。当時は、英文学科の吉川清隆先生やフィリップ・ウィリアムズ先生に大変お世話になりました。その方々の人格が私の中で大変プラスになったことを思い出します。アメリカに行きたいという夢を持つようになったのもその頃でしょうか。現在の大学院棟、当時のシュネーダー記念図書館に何度も足を運びました。また礼拝堂にもよく行きました。正直言います、キリスト教の基礎知識もないまま今日に至っていますが、機会があったらまたあの礼拝堂に戻って説教を聴き、パイプオルガンの音色とともに讃美歌を歌ってみたいです。

学長 大学卒業後海外勤務の中で、大学での英語はすぐに通用しましたか。

和田 私は中学生の頃から英語に興味があり、ラジオ放送などを聞きながら勉強していました。大学でも授業やクラブ活動を通して英語に接してきましたので、実際に海外部門に移った40歳になってからでも非常に役立ちました。



東京海上火災保険株式会社  
常務取締役 海外本部長  
和田 博義氏



東北学院大学 学長  
倉松 功



今回は、昭和43年に本学経済学部を卒業されました、和田博義さんをお訪ねし、豊富な海外での経験から、グローバルな視点で世界の中の日本、そして東北学院大学の姿をお話ししていただきました。

### 海外から見た日本 -教育の相違-

司会 ニューヨークやロンドンでの駐在の経験から、日本と海外における教育の相違について何かお感じになったことがありますでしょうか。

和田 昭和59年にニューヨークへ行った時は、妻と当時小学4年生と2年生の2人の子供も連れていきました。そのときのパスポートは、自筆で英字のサインをしなくてはならず、アルファベットも教えていなかった子供たちには苦労をかけました。子供たちをアメリカの学校に入学させましたが、4年生という難しい時期の長男はなかなか馴染むのに苦労したようです。アメリカの教育は「encourage(励ます)」がポイントです。子供の教育、例えば、怒ることが10回あっても1回しか怒らないというようなことです。これが日本の場合、10回あったら10回全て怒るでしょう。会社の中でもencourageすることが本当は大切であると考えております。

学長 日本とアメリカの文化では、それぞれ特徴的な側面があると思います。欧米文化やキリスト教世界では、個人しか持っていないものを引き出さないといけません。日本では個人主義はエゴイズムと置き換えられて非難されることもあります。そうではなく、その人しか持っていないものを生かすことが個人主義だと思うのです。そもそも教育とは「引き出す」という意味なのです。そのためには、和田さんの言われるように、encourageをしなくてはなりません。ただ叱るだけでは萎縮するだけです。

和田 子供がニューヨークでピアノスクールに行っていた時のことです。その先生の家で発表会をした時、アメリカ人の場合、子供が何度となく間違いながらも弾き終わると、聴衆のお父さんが、「ブラボー」と

声をあげるのです。そこで子供は笑顔を浮かべます。これは日本人にはできないことでしょう。日本の場合は恐らく家に帰った後、「間違えてばかり」と言って怒るだけです。この差がアメリカと日本の文化の違いを端的に表していると思います。学長 近代日本においては上から押しつける、そういうことが日本全体に広まっていたのかもしれませんが、バブルの崩壊後は多少様子も変わり、例えば官から民へという動きにも少し見えるようになったかと思われまます。

### 文明と文化

和田 私がニューヨークに行く際に、司馬遼太郎氏の『アメリカ素描』という本を読みました。その中に、「文明」と「文化」について書いている箇所があります。司馬遼太郎氏は、文明はだれもが参加できる普遍的なもの、合理的なもの、機能的なものだと定義しています。一方で文化というのは、全く不合理の世界で、ある特定の国にしか適応できないものだと書いています。確かにそう思うところがあります。例えば、襖を開ける時、女性は畳に膝をついて開けるという作法は、不合理そのものです。だから世界に広がらないし、普遍的にならない。よってこれが文化であると考えられます。アメリカは、そのような観点で考えると逆に文化がない世界、文明だけの世界という感じがします。

学長 さらに日本の場合は、異文化を排除する傾向もありますね。「外国はがし、日本もどし」という言葉さえあるくらいです。

和田 おっしゃるとおりです。

学長 異文化の排除同族主義とか村八分は、聖書とは異質のものだと思います。



和田 以前『日本異質論』という本が出版されました。日本は、やはり、文明に対して率直になれないというのです。アメリカで始まるものの多くは、普遍性を持っています。合理性があり、機能的です。そのようなものは自然に世界に広まって行きます。まさに、文明発祥国そのものなのです。他方、文明だけでは疲労してしまうこともあります。文化は、心を和ませるところがあります。アメリカにはそれが欠けていて、逆に日本は文化の自家中毒になっていると思います。

学長 アメリカとヨーロッパの対立にも言えます。基礎は同じかもしれませんが、自国の文化を絶対視して固執することはできないでしょう。効率、効能、便利ということだけを前面に出す文化はヨーロッパにはありません。アメリカの競争社会の持っている一つの問題で、すべてそうではないですが、市場原理を優先し発展していることがもたらす陰の部分があることも十分に認識していなければならないでしょう。

和田 アメリカ社会にいと反動として様々な国の文化にあこがれることもあります。

### 21世紀の視点 -東北学院大学へ望むこと-

#### 求められる能力

司会 アメリカは多民族国家ですから、合理的ではないと共有する



本誌編集委員会 編集長  
佐々木 哲夫



ことが難しいのではないのでしょうか。ある意味で日本も文化と文明を共存させなければならないグローバル化の時代になってきたと思います。21世紀という新しい時代における東北学院大学のあるべき姿についてお願いいたします。

和田 私のようなたたき上げで外国語を身に付け文化を理解した人間が国際舞台で仕事をすること、なかなか困難なことです。言語の問題はもちろんですが、日本社会の特徴でもあるように、論理的に思考を整理し相手を説得することになっていないのです。例えば、アメリカのビジネス書は事実を並べて論理的に構成されていますが、日本のビジネス書は印象的・感覚的な形態です。これでは外国人を説得できません。ですから、事実を論理立てて相手を説得できる人を育てていかなければならないと思います。英語は極めて論理的な言語だと思います。日本語はそのまま英語にならないことがあります。英語を直訳で日本語に置き換えると相手の心に直接入り込めることがあります。論理を身に付けなければならぬ時代に入っているのですから、そのような能力を身に付けた人材を育成してもらおうことがこれからの東北学院大学に必要なことだと思います。

学長 日本の文化を担いながら論理的に相手と会話ができる訓練をすることが、日本にとっても役立つし、日本を世界に広めることに

## 世界の中の日本 ——異文化の掛け橋に

もなるでしょう。

和田 おっしゃるとおりです。どちらの文化も理解し、日本独自の文化と異文化の掛け橋になる形が一番望ましいのです。

学長 それが世界のローバリゼーションの中で、自分を生かす道ではないかと思えます。つまり、異文化を手放して受け容れるだけでは異文化が生きてこないのです。大学でも国語や日本文化、日本芸術などの教育が必要だと思います。その上で、自由な環境の中で個性を發揮し、個人の尊厳を尊重できるような教育ができればと考えています。

### 教養教育の重要性

司会 専門的な教育は当然ですが、教養教育も国際社会で活躍するときに必要とされる教育だということでしょうか。

和田 そうです。海外の文化や歴史、人文地理のような一般教養を知っていることは、ビジネス界でも非常に有効です。仕事の後のディナーやパーティーの中で人間関係が深まっていくことは間違いありません。教養力はそういう形でも有効に働くのです。

学長 東北学院大学は「教養大学」であると公の場で私は言っています。日本では、教養大学は一段低い大学に見られる傾向も一部にはありますが、教養教育は非常に大切だということです。幅広い教養教育の中で経済学の専門教育を学ぶというように、専門教育は、言わば教養教育の一部であると考えています。

### 求められる学生

司会 ところで、東北学院大学の学生が就職の面接に来る場合、どのような学生に魅力を感じられますか。

和田 東北学院大学から我が社に入社される学生が最近少ないような気がします。昔は確かに、東京や京都、一橋、慶応大学出身を多く採用していましたが、近年は、大学を問わず、その人物が仕事を通してどのくらい大きな成果を生み出す

ことができるのかということを見ています。ですから、是非頑張ってください。必要としている人材は、ある一定の教養を持った人で、さらにガッツのある人です。ノウハウや専門知識、スキルなどは自己の努力次第なのです。性格も、表現力やコミュニケーションのスキルで変化させることができるでしょう。ですから、悲観になる前に、努力してほしいと思います。

### 英語教育

学長 本学では英語教育の見直しとして、教養教育を行いながら、英会話や情報リテラシーなどのツールは長期休暇中の講習で補うことを提案しています。情報教育においても小学校からの学習が増えていますので、大学はそれらを学習する高度な設備を提供していくことが必要でしょう。それは英語についても同じことが言えます。さらに、そのようなツールとしてのIT、英語訓練の設備を利用したいという意欲を持たせる教育もしていきたいですね。

和田 私の学生時代には英語の得意な人たちが多かったですね。そのような特色を今後も大切にしたいと思っています。

学長 私は英語の東北学院大学」の復活を強く望んでいます。そのためには、英語を母国語とする先生に教育していただくことと交換留学の充実です。交換留学については、海外の学生と日常的に接して英語に対する意欲を高めるために、現在のアメリカ、ドイツ、イギリス、中国、韓国という地域の7つの大学との交流を、今後30の大学まで広げていきたいと考えています。そして、1万3,000名のうち少なくとも1%の学生が参加できる交流を目指していきたいです。

和田 大変すばらしいことです。インターネットの8割以上が英語の文書である状況を見てもわかるとおり、英語はとても重要です。今後は、学長の言われたことをいかに早く実行に移すかがポイントです。

(社)日本私立大学連盟  
創立50周年記念  
『市民公開講座』  
仙台で開催

国内121校の私立大学が加盟する(社)日本私立大学連盟が、今年、創立50周年を迎えます。それを記念する事業の一つとして、9月28日(金)13時30分～17時00分に仙台ガーデンパレスを会場として、『市民公開講座』が開催されます。

「21世紀における私立大学の役割(仮題)」というテーマをもとに、教育立国日本の実現のために、私立大学が今後どのような役割を果たさなければならないのかを、市民の皆さんと一緒に考えていきたいと思ひます。

【問い合わせ先】

東北学院大学総務部調査企画課  
TEL. 022-264-6424  
FAX. 022-264-3030  
E-mail:  
c.kikaku@staff.tohoku-gakuin.ac.jp

仙台の経済と  
市民生活を語る

— 経済学部公開講義 —

東北学院大学経済学部公開講義が、高等教育ネットワーク・仙台との共催で、5月から6月にかけて開催されました。『近現代仙台の経済と市民生活』という共通テーマのもと、6名の講師により様々な角度から開府400年を迎えた仙台の昨今について講義が行われ、多くの市民や学生たちが熱心に耳を傾けていました。



学長 英語のコミュニケーション能力を高い水準まで上げることを、1万3,000名の学生全員に求めるのは難しいので、今後の方向としては、既に実施している英語のグレード制(注:能力別にクラス編成を施す制度)を全学部でさらに発展させ、英語能力を高めることのできる学生はさらに伸ばし、苦手な学生は一定レベルまで高めるという方法を考えていかなければならないでしょう。

和田 我が社でも同じような問題を抱えています。現在駐在員が140名ほどいるのですが、すぐに海外で仕事をしたり、現地の人間とコミュニケーションをとることがなかなかできないのです。たとえ140名全員を底上げして、外国語を話し、しかも経営ができる人間に育てようとしても到底無理な問題です。そうすると、当面の方法として考えられるのは、年度ごとに数名ずつを集中的に教育し、それぞれの国の重要なポスト・ヘローテーションで配置することです。そのため、年齢が上だからという年功序列制は必要なくなります。むしろ若くて努力型の人間の方が英語もでき、経営能力がある場合もあります。そういう人間を思い切って現地社長にするとか、あるいは副社長にすることを今始めています。

おわりに

和田 話は変わりますが現在の東北学院大学の在学や卒業生はどのような活躍をされているのですか。

学長 毎年3千数百名の卒業生を出しています。同窓生は既に13万人を超えました。受験生の出身校では、東北6県が多く、特に地元の宮城県が多いです。また、多くの卒業生が全国でも活躍しています。各地区で開催される同窓会に出席する機会が多くありますが、それこそ教養とガッツに満ち溢れた方が多いのに励まされています。

和田 私もその一員として誇りに思います。学生時代に培った教養と英語が今の自分にあるのです。学生当時、今の大学院棟にあったシュネーダー図書館で読んだ福沢諭吉の『瘦せ我慢の説』という、勝海舟と榎本武揚を問責する本があります。福沢諭吉は学問の世界で変革を支えてきた人で、勝海舟や榎本武揚は第一線で活躍した人です。在野の思想家教育家として終始した福沢から見れば、第一線で活躍して、台閣に列したり爵位を得ることは晩節を汚すものじゃないかと問責するのです。それに対して勝海舟が切り返した言葉があります。「行蔵は我に存す。毀誉は他人の主張、我に与らず、我に關せずと存じ候」です。これは私にとって強烈な言葉でした。サラリーマンである今でも、自分の哲学だと感じています。学長 それは「なすべきことをなしたのみ」しなければならぬことをただけです。ルカによる福音書第17章10節)という聖書の言葉そのものです。

和田 自分は会社のためにいいと思うこと、あるいはよしと思うことを行う。すなわち、行動の選択をするのは自分自身だということです。その結果として、課長や部長の職を他人が与えてくれる。自分から望んだものではないということです。そのような気持ちで仕事をすればいいと思っております。

司会 本日はお忙しい中お時間をいただきましてありがとうございます。和田さんの今後ますますのご活躍を祈念申し上げます。



東京海上火災保険 株 本店にて



## 「本学における情報教育の今後」

情報処理センター所長・工学部教授 越後 宏

世紀の変わり目に登場したITという言葉は、IT革命、IT戦略等々、その影響力の大きさを予感させます。そもそもITはInformation Technology (注1)の略ですが、現在コンピュータとネットワークを統合した実体(例えばInternet)とそれを利用したものすべてを含めて使われているように思われます。

1960年代に知識共有と危機分散を目的に提唱されたコンピュータネットワークは、パソコンの進歩とネットワークの拡充により、今や広範囲に分散する知識の巨大な塊と化し、ボーダレスな環境を提供するグローバル(地球規模)なネットワークとして、我々のごく身近に存在するものになったわけです。インターネットを百科事典的に利用することが日常茶飯事となってきており、Eコマース(注2)等、従来の経済社会を変革するものとして第3次産業革命と位置付ける人もいます。(Computer Graphics)バーチャルシステムなどに関わるアプリケーションソフトの進歩と相まって、文字、音声、静止画、動画等の面での創造活動とそれらの情報のグローバル配信は、芸術文化の領域にも大きな変革を生みつつあります。教育においてもIT

を活用した授業等の試行例が数多く報告されており、時間と空間の制限のない環境を提供するITを活用した遠隔教育の試みも始まっています。また、データベースに蓄積された講義をオンデマンド(注3)で随時受講するシステムも提案されており、生涯教育と相まって自宅で講義を受けることの可能な日も近いと予想されます。

ところで、このような時代の流れの中にあつて、本学が従前より情報処理教育に力を注いできたことにご承知のとおりです。各キャンパスの情報処理センターを中心に、情報処理教育設備が、最新の情報処理教育に支障がないよう整備されており、その規模は東北屈指のものです。また、カリキュラム上では、昨年度からスタートした新カリキュラムの中に、全学的に情報処理の基礎教育を意図した科目(文学部と法学部「コンピュータ科学」、経済学科「情報リテラシー」、経営学科「情報処理概論」、教養学部「基礎コンピュータ」、工学部「コンピュータ基礎」など)が導入され、在学生は一律に情報処理の基本を身に付けることになりました。また、これら3キャンパスの情報処理センターは、専用回線で接続され、

有機的に活用される環境となっています。また、学外のネットワークにも接続され、現在ではメール交換はもちろん、インターネットの利用(ホームページの閲覧検索等)が行われ、研究教育はもとより、就職活動等にも広く活用されています。今後、ネットワークについては、動画像伝送が十分行えるよう、さらに性能向上を図ることが計画されています。

一方、現在、小学校、中学校、高等学校での情報教育については、設備の拡充が計られIT基本法構想のもとに拍車がかかるものと予想されます。また、高等学校教育では、平成15年4月から教科「情報」の導入が開始されます。そこでは、情報活用の実践力を高めること、情報の科学的な理解を深めること、情報社会に参画する態度を育成することが盛り込まれています。平成18年度からは、この「情報」の教育を終えた学生が入学してくることになります。これに対して、大学での教育の内容方法等については、今から準備を進めるべきでしょう。

ITはある意味で諸刃の剣でもあります。利用する者の社会的倫理観正義感が欠如することはゆるされません。いわゆる情報倫理の重要性は

忘れてはなりませんし、これに関連した教育が十分になされなければなりません。また、大学は広義のデジタルデバイド(注4)を生むことなく、教育研究をより効果的に進めよう今後情報通信インフラの整備とその活用を率先して行う必要があります。近隣社会へのサービスも求められるでしょう。

IT革命、それは極端に効率を追求し性能の優劣がそのまま存否に反映される結果となる方向に向かっているとと言えるでしょう。しかもこれがグローバルで起こりつつあります。このように技術の進歩による変革が迫られた状況の中にあつて、これからの若者は生き抜いていかなければなりません。立派な人格をもち、社会性を身に付け、人間性豊かで社会に寄与できる人間の育成こそが、あらためて求められるのではないのでしょうか。今本学が何をなすべきか、大いに議論を進めなければなりません。

- (注1) 情報技術あるいは情報通信技術
- (注2) 電子商取引
- (注3) パソコン等でユーザの要求する画像や音声を提供するサービス形態
- (注4) 情報の知識技術を持つ者と持たない者との格差

## 「工学における情報教育の現状と課題」

情報処理センター所員・工学部助教授 岩本 正敏

情報技術(IT:Information Technology)は私たちの生活と深くかかわるようになってきました。私たちの未来はITをどのように活用するかによって決まると言っても過言ではありません。先人は石を砕き刃物を生み出し、それを道具として進化させ、道具を使いこなすことで現在の文明を築き上げました。先人と同様に私たちはコンピュータを道具として活用することで新しい社会を創出することになります。情報教育に求められることは、ITについての理解と、社会とITとの関係についての理解を深めることにあります。情報教育の目的を一言で表現するならば、

ITを活用し新しい社会に参画できる市民の育成となります。

ところで、私たちは正しくITと接しているのでしょうか。近年コンピュータを操作することを趣味とする若者が増加しています。コンピュータは道具であり、道具は不必要に利用すべきではありません。また、道具を使うことを目的にしてはいけません。何のために道具を使うかを明確にすべきです。料理人は包丁を道具として扱います。しかし、包丁だけが使えても料理は作れません。料理教室で包丁の使い方を学ぶことは重要ですが包丁教室で包丁の使い方を学んでもそのことに意義を見出せ

ません。現在の情報教育の現場では操作指導に重点が置かれ、コンピュータ教室(包丁教室)との表現が一般化していることに疑問を感じます。また、道具は使い方を誤ると凶器となり人に危害を与えることを忘れてはいけません。道具は適切な場所で、適切な利用が求められます。

さらに、コンピュータはネットワーク化することで道具から環境へと進化していきます。私たちが包み込む情報環境としての理解が必要になります。工学は道具を進化させ、適切に配置し、環境整備をする役目を担っ



ています。そのため、工学における情報教育では私たちの生活の営みに基礎を置き、道具を理解し、道具を創造し、安全にそして効果的に活用できる市民としての技術者育成に努めなければなりません。

Interview

## 学生たちは、今

社会人大学院生



### 「自分自身の知識を増やすチャンス」

大山 貴之さん  
大学院法学研究科法律学専攻博士課程前期課程2年  
平成5年3月 東北学院大学法学部法律学科卒業  
職業 地方公務員

#### — 大学院入学を考えるようになったきっかけを教えてください。

職場の同僚に、大学院の社会人学生としてヨーロッパ文化史を学んでいる人がいて、「そういう道もあるんだ」と思いました。ちょうど、5年勤めた民間企業から地方公務員に転職して、時間的な余裕が生まれたところで、「何かやってみよう」という気持ちはありましたし、その頃、雑誌や新聞などで社会人学生を扱った記事をよく目にしたのも手伝って、私も一歩踏み出してみようと思ったのです。

#### — 法律学専攻で何を専門に研究していますか。

商法です。私は地方公務員ですから、教授から「なぜ商法なのか。仕事にどう生かすのか」と聞かれることがあります。しかし、私は公務員という職業はサービス業だと思っています。実際に、『自治体の運営』から『自治体の経営』へと表現も変わってきています。業務に役立つ行政法を学んでいる人は既にたくさんいますが、商法という司法の分野から物を考えられる人間というのはまだ少ないと思います。また、そういう職員が一人ぐらいいてもいいのではと考えたからです。

#### — 昼夜開講制により、大学院では社会人学生の勉学が可能となりました。このような最近の状況をどのようにお考えになっていますか。

『自分自身の知識を増やすチャンス』に出会えたので、こういった制度が設けられたことは大変素晴らしいことだと思います。もっと多くの人が私のようなチャンスに出会えるよう、この制度を広く知ってほしいです。特にホームページは、知りたい情報をつかむ「情報源」になってきていますので、より充実した内容を掲載してほしいと思います。

#### — 仕事と勉学の両立はどうですか。

職場の同僚の理解は必要ですが、木曜日の一番遅い6時間目の授業と、あとは全て土曜日の授業でカリキュラムが組めているので、特に仕事への影響はありません。

#### — 大学院で学んだことを、今後どのように生かしていきたいですか。

大学院で勉強してみて、今まで意識していなかった言葉の意味や文章のつながりというものを意識するようになりました。また、物の考え方も、今まで「きつこくでしよう」というように感覚的に考えていたのですが、「こういう考え方もあるのでは」と、様々な面から考え、理解するということができるようになりました。このような知識や技術は、公務員に限らず、どのような職業でも役に立つと思います。

#### — これから大学院で学ぼうとしている学生や社会人の方々にアドバイスをお願いします。

大学院に入ろうか(進もうか) どうしようかと迷っている人に、「最初の一步を踏み出せば、結構何でもやれるものだよ」と言いたいですね。迷うときによく考えてみるのは当然のことですが、その後一歩行動をすることが大切。その一歩が踏み出せば、世界は広がると思います。

## キミも 大学生気分!!

— オープンキャンパスのご案内 —

「大学ってどんなところ？」そんな皆さんに是非参加していただきたいのが、8月3日(金)に泉キャンパスと多賀城キャンパスで開催される『オープンキャンパス』です。入学、授業、サークル、就職などの各種説明や、最新の設備を備えた図書館、オーディオビジュアルセンター、情報処理センターなどを自由に見学し、また直接触れることもできます。「いったい大学生はどんな昼食をとってるの?」という食欲旺盛な方には、その食堂で実際にお昼を食べてみるのはいかがですか?

高校生はもちろん、一般の方々も自由に参加できる『オープンキャンパス』興味を持った方は、下記の窓口まで今すぐお問い合わせください!

#### 【問い合わせ先】

東北学院大学総務部調査企画課  
TEL. 022-264-6424  
FAX. 022-264-3030  
E-mail:  
c.kikaku@staff.tohoku-gakuin.ac.jp



泉キャンパス 食堂

# 『現地に入り地域の魅力を見つけだす —齋藤ゼミの調査研究活動』

経済学部助教授 齋藤 善之

協奏、そして共創へ

本学に赴任して5年。この間、私のゼミでは一貫して、仙台及び東北地域を対象として、「地域の魅力を探る」ことをテーマに、学生たちとともに調査・研究活動を行ってきました。この度、本誌からのご依頼により、あらためて当ゼミのささやかな軌跡を振り返り、ゼミ活動における地域社会との連携や成果還元の方法と課題を考えてみたいと思います。

最初の1998年度のゼミ(学生12名)は、仙台市河原町を研究対象としました。まず通りに面した家を1軒ごとに描いた町並み絵図、題して「歩いて調べた河原町今昔マップ」を作成、店舗の構成や現状を把握しました。さらに地元の歴史や現状に詳しい数人の方々には聞き取り調査を、また商店にはアンケート調査を実施して、河原町の歴史と文化、商店街の現状を把握しました。その過程で、河原町において藩政時代からの伝統を有する五軒茶屋の存在がクローズアップされてきました。さらに五軒茶屋の生き証人であり、「さんさ時雨」の最終伝承者でもある高橋みつさんが、茂庭の養護施設いらっしやることを知り、インタビューをさせてもらいました。(その後しばらくして、みつさんをご逝去されました)。さらに河原町商店街振興組合の鹿野さん(洋品店経営)のご提案を受けて、現実にある空店舗の活用方法について、学生たちなりの感性で提案させていただくことになり、「遊んで学べる駄菓子屋空間、なつかし横丁・河原茶屋」の構想が生まれました。それを裏付けるため、仙台における駄菓子屋の分布と現状、さらには日本の駄菓子の製造流通過程の研究もなされました。また実際に河原茶屋の設計素案、及び収支

予測シミュレーションも行いました。こうしてまとまったプランは、1999年2月20日、河原町の南仙台振興ビル2階会議室で行った「河原町のにぎわい拠点づくり計画・報告会」において発表することになりました。地元からも50人ほどの参加を得て、さらにマスコミの取材もあって、テレビや新聞で報道されました。(写真1)

1999年度のゼミ(学生14名)では、仙台市国分町を研究対象としました。仙台市民なら国分町を知らない人はいないでしょうが、その全貌を知っているという人もまた、あまりいないのではないのでしょうか。そこでまず全体像を把握するため、全員で手分けして、国分町1丁目から3丁目までの全ての店舗に対して外面調査を行い、1軒ごとのデータベースを作成しました。ちなみに国分町にあった店舗総数は2,573軒(そのうち、スナック・バー・居酒屋などの呑み屋が1,666軒、レストラン・寿司屋・そば屋・ラーメン屋・喫茶店などの飲食店が195軒、オフィスが466件)でした。さらにこのデータベースをもとに、業種別店舗の分布図を作成したほか、バーのオーナー・店長・ママ・ホステスへの聞き取り、「国分町にみる看板の研究」、「風俗営業の許認可について」、「国分町ラーメン考」などの個別テーマの研究を行い、国分町の実態を多面的に解明し、報告書『仙台歓楽街・国分町の研究』にまとめました。

2000年度のゼミ(学生13名)では、福島県いわき市の古湊地区を研究対象としました。いわき市(地域振興課)では、市内外の大学ゼミがいわき市を調査対象として研究活動を行う場合、調査費の一部を援助するいわゆる「セミナーランド」事業を行っており、この年、当ゼミが応募した調査計画が採択されたことがきっかけになりました。まずは東北太平洋岸で古い商港・漁港であった小名浜の発祥の地である「古湊地区」を研究対象として、可能な限り綿密な聞き取り調査を行うことにしました。当地区の中心にある浄光院の住職さんの全面的なご協力を得られたこともあって、この地に長く住んでいる60歳から90歳までの14人の方々に対して、詳細な聞き取りを行うことができ、その結果、戦前・戦中・戦後にわたる当地の商いや生活が鮮明に甦ってきました。今は普通のたたずまいを見せる町並みのなかに、実に様々な出来事があったこと、それを記憶する人たちがここに静か

に暮らしていることに学生たちは驚かされました。こうした聞き取りをもとに、商港・漁港、トチ馬車と軌道、諏訪神社の祭礼、古地図から見た町並み復元などの研究がなされました。これらの成果は、2001年3月4日、現地・浄光院の本堂で行われた報告会「歩いて聞いて調べました、いわき市小名浜古湊区の商いと暮らしの記憶」において発表しましたが、地元の人たち40人ほどが参加してくれました。終了後、出席されたいわき市地域振興課長から、大変感激したというお褒めの言葉もいただきました。(写真2・3)

以上3年間にわたるゼミを通して、学生たちは、自分たちの足で歩き、目で見て耳で聞いて肌で感じ、地元の人たちと様々に触れあうなかで、次第に地域に目を向けることのおもしろさ、その意味に目を開かれていったようです。今日、マスメディアから流されてくるのは、圧倒的に中央の情報です。そうした流れに逆らいながら、地域に目を向け、地域固有の価値を見いだすことは、ますます難しくなっているといえるでしょう。特にテレビの影響を受けやすい若者は、東京のどこにどう流行の店があることなどは、異様なほどよく知っていても、一方で自分たちの足元にどんな魅力があるのかは、知らないし関心もない人が多いように思います。そもそも地方や地域に魅力などない、と思い込んでいる場合さえあるようです。しかし本来、自分たちの生活を豊かにしていくのは、足元の地域の情報であり、遠い東京の情報ばかりではないはず。何も無いと思いついていた地元や地域に、踏み込んで調べていくうちに、どんなところにも人間の営みがある限り、おもしろさがあり魅力もあるのだという、あたりまえのことに改めて気付いていくこと、そしてそれを発見していく情熱と方法を身に付けていくこと、これがこのゼミの目的の一つだと思っています。

さて今年の4年生の研究対象は、塩釜に決まりました。5月には1回目の現地の予備調査が行われました。歴史と文化、そして古くからの商業が息づく町として、塩釜の調査もまた、私たちに多くの実りをもたらしてくれることでしょう。そのためにも、これまで齋藤ゼミが培ってきた地域研究の経験を最大限に活用し、ゼミをあげて全力で調査に臨みたいと思っています。



写真2



写真3



平成11年2月23日 河北新報夕刊

写真1

## 渡辺禎雄版画など

□ 長らく死蔵されていた渡辺禎雄氏の版画が、昨年の秋より土樋キャンパス教育管理棟(8号館)に展示されています。あれだけの作品をどうして入手できたのだろうかと渡辺禎雄氏の名をご存知の方は驚かれたのではないのでしょうか。

□ 版画家渡辺禎雄氏のプロフィールを教文館出版『キリスト教大辞典』によってまず紹介します。

### Profile

渡辺禎雄

型染版画家

1913(大正2).7.7 □ 東京に生れる。

1941年芹沢銈介に師事、型染版画に取り組む。

47年『ルツ物語』で第1回日本民芸館賞を受賞、翌年同作品で国画賞を受賞。

56年『うづらを捕る少女』で日本版画院学芸賞を受賞。

58年ニューヨークのセント・ジェイムズ教会主催の(現代日本版画展)

に『青銅の蛇』、

62年東京国際版画ビエンナーレ

展に『羊飼いの』、『星を見る羊飼いの』

を出品。

69年国画会会員になる。

69年以降アメリカに招かれ、大学で版画実技を教え、個展を開く。日本の伝統的な型染めの技法を駆使した版画と聖書の題材との間に独特の表現を作り出し、世界的な評価を得る。

他の作品に『ヨナ』(1959)、『洗足』(1962)、『エジプトへの逃避』(1967)、『ノアのはこぶね』(1972)、『エルサレム入場』(1974)、『十字架を負うキリスト』(1978)など多数がある。

日本民芸館、国立近代美術館、ニューヨーク・モダン美術館、ボストン美術館、パチカン美術館に作品が収蔵されている。

□ このような版画家の作品を多数寄贈されたのは、1962(昭和37)年から1967(昭和42)年まで、本学の教授としてキリスト教学を担当されたR・ノーサップ先生です。先生は帰国に際して、何点かの洋画とともに、これらの作品を本学に残されたのです。

□ そのほか、8号館には、本学経済学科1972(昭和47)年卒渡辺総一氏

の、ヨハネの黙示録第5章をモチーフとする「讚美」が展示されています(氏の詳しい紹介は本誌次号で)。渡辺総一氏は卒業後企業に勤務、志を立ててお茶の水美術院に学ばれ、今日、日本キリスト教美術を代表する一人として活躍しています。昨年ドイツ・ハノーファーにおける万国博覧会で、能の上演とともに現代日本のキリスト教芸術を紹介する機会を与えられています。

□ また、本学には本誌(第3号)でお伝えした田中忠雄画伯の「聖堂のオルガニスト」が院長室に置かれています。

□ 欧米はもちろん韓国や中国の大学を訪ねた方は、規模の大小はともかくとして、大学博物館ともいふべきものをご覧になったことがおありでしょう。大学の知的遺産としていか程かの造型美術を、本学も所有し、いつの日か、それらを、既に所有している史学科の考古学・民俗学の資料とともに常時展示したいものです。創立115年記念にオープンした「東北学院資料室」は、その一歩になるかも知れません。



渡辺禎雄氏 □ 版画



渡辺総一氏 □ 油絵

## 大学院より

### 文学研究科 大学内で研究の国際化を目指す —欧米諸大学の博士論文の集成—

学問研究の国際化で特に強調されるのは、外国留学でしょう。確かに、留学先で指導を受け文献や資料を読みつつ現地を直接観察することは、理解が数段早まるに違いありません。文学研究科に学ぶ学生はとりわけその必要性があります。しかし、院生が誰でも外国で研究するというわけにはいきません。経済的な問題を別

としても、現地の方々と会話や議論を行うには、事前によほどの訓練が必要です。

ヨーロッパ文化史専攻では、昨年度に文部科学省と大学当局の援助を得て、欧米諸大学が最近博士の学位を授与した歴史学関係の論文3,200点余りを購入しました。今年度も数百点の博士論文を購入する予定です。利用目的は多様

ですが、差し当たって外国で研究する機会を持たない院生にも、自分の研究領域に近い博士論文を取り上げ検討することによって、現地の若手研究者がどのような問題に取り組み、その成果がどの程度の水準にあるかを効率的に学ぶことができるはず。大学内で研究の国際化を目指す態勢の一環と考えています。

### 経済学研究科 社会人修士を送り出して

本研究科でも、平成10年度から博士前期課程において社会人入学を実施し、昼夜開講制を導入しました。予想よりはるかに多い志望者があり、会計事務所などでの豊富な実務経験を有するさまざまな年齢の方々が入学しました。このことは、学部卒業後すぐに入

学した若い院生に、「学ぶ」という姿勢の面で好影響を与え、全体に緊張感をもたらし、雰囲気が大いに変えてくれました。そして、平成11年度には7名、平成12年度には8名の社会人修士(経済学また商学)を送り出しましたが、いずれも仕事をしながら修士論文を完成

させたという達成感を抱いて、新たな意欲に燃えた毎日を送っているようです。今また平成13年度の修了を目指している方々が修士論文のテーマの提出を終えたところ。大学院が、生涯学習の機会を与える場として、その社会的要請は一段と高まっています。

### 法学研究科 院生の研究成果を公表

本研究科の紀要『法学研究年誌』第10号が本年3月に刊行されました。庄子陽子『満州国』不承認の法的根拠に関する一考察、菊地康弘『アメリカと日本の監査制度について』、近藤牧子『DNA鑑定の証拠能力と証明力が収められています。』

庄子論文は、「満州国不承認の主たる根拠を、国家としての自立性の欠如に求めることにより、従来

の国家承認論研究に一石を投じるものです。菊池論文は、法改正の試みが積み重ねられてきた監査制度について、監査役と取締役会内部の監査委員会という監査機関の並存を立法論として主張したもの、また、近藤論文は、DNA鑑定につき、それが誤判の原因にもなり得ることに留意し、証拠として用いられる条件などを考察し

たものです。以上の3つの論文は修士論文に手を入れたもの、あるいは、修士論文の元になったものです。

今号には、『法学研究年誌』が10号を数えるに至ったことを記念して、本研究科発足以来の修士論文及び博士論文の提出者並びに題目のリストも収録されています。

### 工学研究科 盛んな院生の研究活動

本研究科の院生たちの多くは、国内の関係学会で研究発表を行うのはもちろん、海外での国際会議の研究発表も増えてきました。その結果、昨年度は、電気学会東北支部より、電気工学専攻1年の山中康弘さんが論文発表賞Bを、2

年の井上哲也さんが優秀論文賞を受賞し、さらに、電子情報通信学会東北支部より、2年の牛田裕人さんが学生表彰を受けました。また、土木学会より、土木工学専攻2年の斎藤公利さんが優秀講演者賞を受賞しました。

この3月には、37名が修士(工学)の学位を取得しました。

今年度、本研究科へ入学した学生は前期過程31名、後期過程1名で、在学院生と合わせると、前期過程69名、後期課程6名、研究生4名、総計79名が研究と勉学に励んでいます。

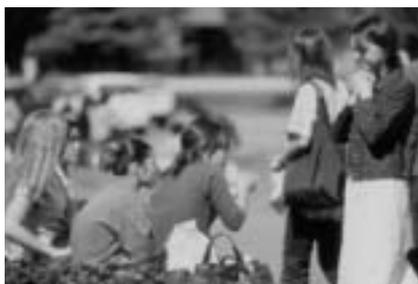
### 人間情報学研究科 博士(学術)の誕生

本研究科では、平成12年度に3名の博士学位取得者を送り出しました。現在、院生は博士前期課程(MC)18名、博士後期過程(DC)15名(うち社会人14名)のように、後期課程はほとんどが社会人です。テーマによっては、朝から夜まで研究室で研究する人、あるいはE-

mailかFaxで進行状況を報告して指導を受ける人、1~2か月に1回の割合で個別指導を受ける人と条件に応じてさまざまです。出身学部もさまざまです。専門研究の前段階での学習に苦勞することもあります。したがって、論文の完成は、後期3年間では願

っていますが、実際は4~5年かけて完成することもあります。学位授与式の後は関係者一同心から喜び安堵します。四月に入り、また次の院生の指導に取り組み始めました。今年度も一人でも多くの博士の誕生を期待しています。

## 学部より



### 文学部

#### 地域資料の総合的整理

本学部史学科の教員が、学内図書費や科学研究費などによって集積してきた図書資料・実習資料は膨大な量になっています。ただ、これらの資料は分野ごとに設置状態も検索方法もまちまちで、分野相互の有機的な使用が難しい状況となっているのも事実です。

本年度、『地域資料の総合的整理とデータベース化』という研究課題で私立学校振興・共済事業団の助成金を受け、収蔵資料の総合的再整理に取り組むことになりました。特定の地域ごとに、歴史・民俗・考古・地理など、それぞれに不統一であった資料を関連統一的な方式でもって収蔵し直し、できれば共通の使用が可能な検索システムをつくりたいと考えています。

仙台圏地域の紀伝資料・民俗資料・資源資料の総合的整理、東北アジア北海道地域の民族資料・交易資料・気象資料の総合的整理、東アジア南部地域の考古資料・農業資料・環境資料の総合的整理などが主な課題ですが、アジア文化史専攻客員教授の王禹浪（オウウロウ）先生・史学科客員研究員の張永江（チョウエイコウ）先生にも、もちろん協力をお願いするつもりです。

#### 輝く教育・研究

#### アジア文化史専攻客員教授 王禹浪先生の新学説

##### 白鳥の町ー哈爾濱(ハルビン)

中国黒龍江省の省都ハルビンといえば、異国情緒あふれた美しい町並みがいやがうえにも旅情をかきたてますが、「ハルビン」という語音の響きにも何かしらゆかしいものがあります。現代中国語音 ha-er-bir(ハアルビン)とはもともとどんな意味なのでしょう。

アジア文化史専攻客員教授王禹浪先生（ハルビン市社会科学院）は、最近この問題に新しい学説を提示しました。十年以上にも及ぶ言語学・民俗学・考古学・神話学各方面からの研究の結果、王先生が出した結論は、「ハルビンの語源は、中国北方に金という王朝を開いたツングース系女真族の言語「哈兒温 ha-er-wen/ハルウン」であって、それは天鷲（白鳥）のことであり、女真族の人々が白鳥のことをハルウンと呼んだのは、「galuwur(ガルウン)」という白鳥の鳴き声からとったのである」というものです。

王先生の新説が公表されると、ハルビン市民は大騒ぎになりました。ついには市政府が関係者を集めて、この説をハルビン市公認のものとするかどうか協議する事態になったそうです。ハルビンの観光案内などにはいずれこの説が載せられることになるでしょう。

王先生自身は、自説はまだまだ百パーセント確実ではないと謙遜されていますが、その研究を集約した近著『哈爾濱地名含義揭秘』（哈爾濱出版社2001年）は、歴史研究のお手本にしたいような力作で、先生の学説を批判するのは容易ではないと思います。

それにしても、ハルビンが実は白鳥のこたごだというのは、これもまたゆかしいではありませんか。ハルビンに散在する湖には毎年多くの白鳥が飛来するそうです。ハルビンを是非訪れてみたい。旅情はさらにかき立てられます。

先生の著作が取り上げている  
白鳥の形をした金代の玉製かんむりどめ



## 学部より

### 経済学部

#### 学科名の改称と今後の課題

商学科は、本年4月から、その学科名を経営学科へ改称しました。東北学院の歴史を振り返ると、商学科は、複合学部だった「文経学部」が「文学部」と「経済学部」とに分離された1964(昭和39)年に発足しています。当時の「商学科」の主要専門科目の構成は、商学系9科目、経営学系6科目、会計学系6科目でした。それから40年近い歳月を経た今日、私たちの学科のカリキュラムの内容は大幅に拡充され、主要専門科目の構成は商学系13科目、経営学系16科目、会計学系14科目となっています。専門科目数の増大と、経営学系の科目数の顕著な伸びは、社会科学全般の専門化・細分化の進展と、経営学系の学問の台頭、並びに、その重要性の増大を反映するものです。近年にお

ける経営諸科学の急速な発展とともに、私たちの学科も自己変革を遂げてきたのであり、その結果がカリキュラム上に現れているのです。

今回の学科名の改称によって、学科の教科課程の実態と学科の名称との隔たりは解消されたことになり、今後の改革の主な課題は、現行カリキュラムに即した講義内容の一層の充実という点へ移行します。情報処理専門科目や国際経営専門科目の充実はもちろんのこと、地域の経済社会に密着した実践的学習の場の提供にも努力する必要があるでしょう。21世紀という変革の時代にふさわしい高度の知識と能力を備えた人材を養成するために、私たちはこれからもさまざまな改革を進めていきます。

輝く教育・研究 経済学部教授 小柴徹修

#### 東北経済の変化

昨年6月、大学設置50周年を記念する国際シンポジウムを開催しましたが、私も発表の機会が与えられました。

その内容は、1970年代以降の東北産業構造の変化を分析したものです。東北経済は農業が従前より主要な産業ですが、この観察期間では製造業とサービス産業(公務を含む)が大きい伸びを示しています。製造業では特に電気・電子機器生産額の伸びが大きいにもかかわらず、従業員は減少しており、全国平均に比べ東北の生産性が大きく上昇しています。他の地域との関連(地域間投入産出構造)でこれを見ると、東北経済はとりわけ国内では関東、国際的にはアジアとの産業連関効果が大きく、今日、東北経済は電気・電子機器生産のフロントヤード(前庭)となっています。

### 法学部

#### 全国統一の法学検定試験始まる

昨年度から、日本弁護士連合会も関係している団体が主催する「法学検定試験」が始まりました。この試験は、4級から1級までの段階に区分されており、受験者の法的知識・能力を全国共通の基準で示そうというものです。これは、誠に画期的なことです。

もちろんこの試験で「真の実力」がすべて測れるわけではありませんし、器用な学生が得をする、偏差値の違いが反映されるだけ、といった批判もあります。しかし、批判や限界はあっても、この試験で示される「実力」には大きな意味があります。一人ひとりの法学部生が入学後に勉強した成果が、在籍大学を超えた全国レベルの共通基準で証明されるからです。

ところで、上に述べたような特質を持つ「法学検定試験」の結果は、個々の学生の努力だけではなく、

それぞれの法学部の「教育の実力」をも表すと言えるでしょう。法学部スタッフが、これまで以上に教育に力を入れようと決意しているのもこのためです。

ただし、受験する学生があまりにも少なければ、この試験の特徴が生かせません。そこで法学部としては、多くの学生の受験を促すため、自分の大学を会場として受験できる「団体受験」に是非参加したいと考えていますが、早朝から使用できる施設の確保が難しいため、まだ実現していません。法学部は、より一層の熱意と工夫を持って学生の教育に取り組むと同時に、「法学検定試験」の「団体受験」を推進していくつもりです。

輝く教育・研究 法学部教授 成田博

#### 米国法律出版史

最近ではアメリカの法律出版社の研究をしています。アメリカは判例法の国であるといわれますが、その判例を広く国民に知らせることについて多大な貢献をなした出版社の役割についてはほとんど見過ごされてきました。それを明らかにすると同時に、出版のあり方がアメリカ法に与えた影響というものについても考えています。そうした視点からアメリカ法の歴史を概観すれば、これまでとは異なるアメリカ法史が書けるのではないかと考えています。



## 工学部

### 学外との交流に関わる二つの取り組み

3月16日に工学部を会場として、宮城産業人クラブ、みやぎ工業会、みやぎ産業振興機構、雇用・能力開発機構宮城センターと共催で「産学共同推進懇話会」が開催され、企業側から30名の出席がありました。山城みやぎ工業会副会長と中鉢工学部長がそれぞれ同工業会と工学部の概要の説明を行った後、各学科長により4学科の紹介が行われました。その後、4班に別れて2時間ほどかけて各学科の主要設備を見学しました。また、場所を移して懇親会が行われました。近年、大学等から生じた研究成果の産業界への技術移転を促進するTLO(Technology Licensing Organization)などが設立されていることから、本学においても今後このような取り組みが活発に行われることが望まれます。

3月18日から3泊4日の日程で、韓国デウル大学の李総長の招きにより、中鉢工学部長他3名の機械工学科の教員が同大学を表敬訪問し歓迎を受けました。同大学は韓国南西部の木浦市郊外の小高い丘の上にあり、教員の平均年齢が38歳という非常に若い活気に満ちた大学です。日本の大学で学位を取得した教員が多く、非常に友好的な雰囲気の中で交流を深めることができました。同大学とは、前年度で退職された機械工学科の佐藤恭三先生と同大学の高先生が、3年前から熱心に共同研究を行いながら今日にまで交流を深めてきた経緯があり、昨年も3名の教員と3名の学生が約1か月にわたり、本学工学部で共同研究を行いました。共同研究の領域も徐々

に広がってきており、今後、交流が一段と深まり、大きな研究成果が得られることが期待されます。

#### 輝く教育・研究 工学部助教授 岩本正敏 (メカトロで遊ぶ会会長)

「子供の時に感動体験  
-創造活動環境の整備-」  
教材ロボット「梵天丸」を筆者が開発し、産学官民による市民活動として子供たちを対象にロボット工作教室とロボコンJrを開催してきました。仙台市科学館を拠点に教室は百回を超え、4千台の梵天丸が子供たちの手に渡りました。自作のロボットが動いた時、子供たちは歓喜し瞳を輝かせます。海外から問い合わせや視察もありました。ものづくり離れは国際的な問題であることを再認識します。ロボコンJrはロボット創造国際競技大会の公認競技として認定されました。

## 懐かしい出会い がそこにある

### ホームカミングデー [同窓祭]のご案内

10月13日、土樋キャンパスを会場に、同窓生相互の親睦や現役学生との交流、また同窓生と大学の絆をより深めていただくために、ホームカミングデー(同窓祭)を開催します。ご招待者は、卒業後20年目、30年目、40年目、50年目の方々です。詳細は、東北学院時報でお知らせするとともに、ご招待者の方々には、直接ご案内します。当日は、記念礼拝や講演会、パイプオルガンコンサートなどを企画しており、大学祭も同日開催されます。ご学友の方々との再会や現役学生の姿を通して、当時は振り返っていただければと思います。

## 教養学部

### インターネットで外国語を!

言語文化専攻には、かねてより語学教育検討委員会という組織があり、本専攻の特色を生かした語学教育のあり方をさまざまな側面から模索してきました。この度日本私立学校振興・共済事業団からの補助金を得て(内定)、本委員会のメンバーを中心に、WWW(インターネット)を用いた語学学習システムの構築に着手することになりました。語学の学習では読む、書く、聞く、話すといった能力を総合的に養っていくことが重要です。しかしそうした総合的な力を下支えるのは、語彙力や基本的な文法の知識であることもまた事実です。こうした基礎的知識の習得の一端をWWWに担わせようというのが、本プロジェクトの基本的なコンセプトです。

まず始めに、英、独、仏、中の各言語ごとに、語彙、熟語、ディクテーション、文法等にかかわる問題を可能なかぎり広範囲に、体系的に作成していきます。次にこれらの問題

を、難易度、あるいは文法の進捗ごとに再編し、段階別ドリル学習の形でWeb上に展開していきます。学習者は自らのIDとパスワードを使ってWebにアクセスし、最下位のレベルから問題を解いていきます。そのレベルに習熟したら次のレベルに、そしてまた次のレベルにという具合に学習が進んでいき、知らず知らずのうちに語学力を身に付けられる仕組みになっています。このシステムの大きな特徴は、インターネットに接続できる環境さえあれば、OSに依存せずに学習に取り組みめるということ。そして個人の学習履歴を一括して管理することによって、学習者は自分の能力や進度に応じた問題に、常に意欲を保ちながらチャレンジすることができるということです。

着手したばかりのプロジェクトではありますが、将来的にはインターネットのメリットを生かして、公開授業や生涯教育等も視野に入れて

いきたいと考えています。完成した際には学生諸君のみならず、学内外関係者の忌憚のないご批評をいただければ幸いです。

#### 輝く教育・研究 教養学部教授 久慈利武

社会学の合理的選択理論の研究  
合理的選択理論は、経済学モデルを社会学や政治学の対象の分析や説明に適用する立場です。社会学は、経済学に対する独自性を自らの学問のアイデンティティの根拠としてきただけに、合理的選択理論を受け入れることは、社会学が経済学の植民地になるものと警戒感が強いのです。しかし、合理的選択から社会学の対象を分析したり説明することによって斬新な認識を持ったり、予測によって問題を制御する展望も開けてきます。何より、社会科学の統一が望めるのです。その金字塔ともいえる訳書に取り組み、刊行を目前にしています。



昨年のホームカミングデー[同窓会]の昼食会風景

## 国際交流センターより



アルスター大学

### イギリス・アルスター大学との交流

アルスター大学は、北アイルランドに4つのキャンパス(Belfast, Coleraine, Jordanstown, Magee College)を持つ英国国立総合大学で、40カ国からの留学生を含め、約21,000人の学生がさまざまな分野で勉学に励んでいる、国際色豊かな大学です。新制アルスター大学とアルスター工芸学校が合併し、1984年に現在のアルスター大学が創立され、人文、商業経済、工学、科学、情報、社会教育の各学部と大学院のコースや施設が充実しています。

本学は、昨年2月に学術交流及び教育協力、並びに学生交換に関する協定を締結し、早速昨年8月から、1年間の交換留学生として1名の学生を派遣しました。

本学からアルスター大学へ学生を派遣するのは初めてでしたので、アルスター地方の気候・風土について、またアルスター大学の科目履修等について、わからないことが多く戸惑うこともありましたが、アルスター大学は、日本からの留学生の受け入れの経験が豊富で、その体制も確立していましたので、本学から派遣した学生も、安心して勉学に励むことができたようです。

現在、日本国内では、本学のほかにも5校が互いに学生を交換しています。日本人の学生はアルスターで英語と専門科目を学び、アルスターの学生はアルスターで2年間日本語を学んだ後、日本で日本語をそれぞれ1年間(または半年)学びます。

アルスター地方は海岸線が美しく、緑に囲まれた穏やかな土地で、人も素朴で親切だとのこと。このように、すばらしい自然に恵まれ、また、国際色豊かなアルスター大学と本学との間で、今後ますます活発な交流が行われていくことでしょう。

#### 国際交流協定校

Ursinus College アーサイナス大学(アメリカ)  
Franklin and Marshall College  
フランクリン・アンド・マーシャル大学(アメリカ)  
Fachhochschule Wiesbaden ヴィースバーデン大学(ドイツ)  
Pyongtaek University 平澤大学(韓国)  
Nankai University 南開大学(中国)  
University of Durham デラム大学(イギリス)  
University of Ulster アルスター大学(イギリス)

問い合わせ先 国際交流センター事務局  
TEL 022-264-6425/6404  
E-mail: IC0@tscc.tohoku-gakuin.ac.jp

## 研究所・センターより



### 『東北学院英学史年報第22号』

#### 英語英文学研究所

本研究所の継続事業の一つに、『東北学院英学史年報』の発行があります。既に、22号を数えています。これは、仙台神学校時代から専門学校時代、中学高等学校から大学までの東北学院全般にわたる英学の歴史を担った人々やその働きを紹介・記録しているものです。

英学というのは、一般には「蘭学・南蛮学に対して用いる英語に関する学問」や「英語・英米文学、またはイギリス・アメリカに関する学問」という意味で使われています。東北学院の英学は、英語・英米文学の研究や教育を通して、建学の精神がどのように継承されてきたかという視点からも評価することができます。

今号では、東北学院専門学校英文科出身のジャーナリスト京極昭氏に、東北学院出身者としてのジャーナリストの生涯を振り返っていただきました。また、独特の教授法で生徒を魅了した恩師月浦利雄校長との出会い、人柄と教育観、先生のエピソードなどの思い出を、教え子である3人の現職教員に語っていただき、授業風景の再現もしていただきました。

現在、大学ESSの学生の英語劇上演の歴史をたどろうとして史料を収集しているところで、ロバート・ゲルハート先生指導の下に、1950年に「ヴェニスの商人」を市公会堂のこけら落としに上演しています。是非、記録に残したいと思っています。先日、デンマーク在住で同時通訳者として国際的に活躍しているカズエ・アンデルセン氏(1960年英文学科卒)が本学を訪問され、1956年労働会館で上演したCome Back, Little Shebaのポスターと写真などの資料をわざわざ届けてくださいました。多くの方々の史料の提供をお待ちしていますので、ご協力をお願いいたします。

問い合わせ先 英語英文学研究所  
TEL 022-264-6401

## 図書館より



OPAC (オンライン総合目録)

### 新しい図書館システムの紹介

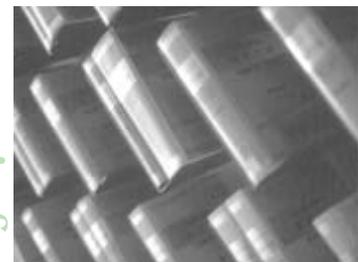
平成8年度に東北学院大学図書館システム「GAINQ Gakuin Academic Information Network System」がスタートして5年が経過しましたが、この4月から、新しい図書館システムが稼動運用を開始しています。旧システムと新システムの相違点はいくつかあげられます。前システムの運用経験を生かした各業務メニューのバージョンアップや、情報関連機器の急激な進歩により廉価で高性能なマシンの採用が可能になったこと、また、OS (Operation System) の切り替えなどにより、前システムに比べ約5倍から6倍の検索速度の向上が実現されたことです。検索対象図書については、中央図書館(土樋キャンパス)、泉キャンパス図書館、多賀城キャンパス図書館、大学院図書館の4館全所蔵冊数90万冊のうち50万冊、雑誌等は16,000種の所蔵情報の検索が可能です。前システム稼動時より懸念事項であったデータ未入力図書については、平成13年度より遡及プロジェクトを立ち上げ5年以内に入力を完了する予定とし、学内で刊行されている論集・紀要等の論文の検索が可能になるシステムを加え利用者サービスの向上と、より充実した図書館システムを目指します。

また、本学図書館では本学の卒業生に利用しやすい環境を整備し、定期試験期間を除き自由に利用できる制度を設けていますので、お気軽にご相談ください。

詳細につきましては、図書館ホームページ <http://www.lib.tohoku-gakuin.ac.jp/index.html> ) をご覧ください。

問い合わせ先 図書館事務局  
TEL 022-264-6491

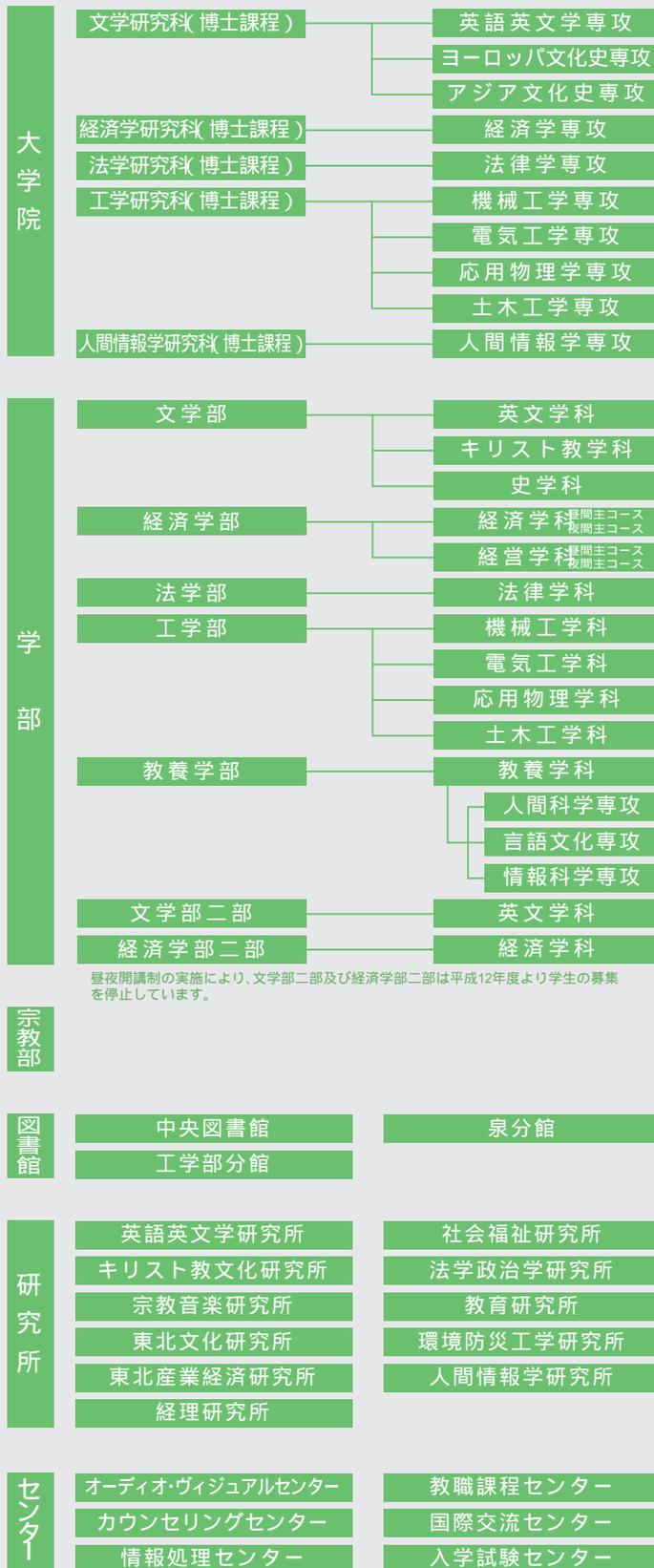
Library info.



International info.

Institute for Research and Center info.

教学組織図 (平成13年度)



昼夜開講制の実施により、文学部二部及び経済学部二部は平成12年度より学生の募集を停止しています。

法学政治学  
研究所より

本研究所は、法学・政治学関係の組織的調査研究とその成果の社会への還元を目的として、平成4(1992)年に設立されました。広く社会に開かれた活動の一環として、5月31日に田中成明京都大学大学院法学研究科教授を招き、『現代日本の法と政治を考える』との演題で学術講演会を開催しました。また、研究所員による公開講座は『市民生活と法』という統一テーマで11月に開催されます。

地域社会と  
法曹教育

—公開シンポジウムを開催—

今般、法学部及び大学院法学研究科では次のようなシンポジウムを開催することになりました。法科大学院問題にご関心のある方をはじめ、多数の方々のご来場を歓迎いたします。  
(入場無料)

東北学院大学公開シンポジウム  
「地域社会と法曹教育」

日時: 2001(平成13)年7月14日  
14:00 ~ 17:00

場所: 東北学院大学土樋キャンパス  
8号館5階 押川記念ホール  
基調報告

東北学院大学法学部・大学院  
法学研究科合同検討委員会  
中村 英本(法学部教授)  
パネル・ディスカッション  
パネリスト(50音順・敬称略)  
桂川 (東北新報社論説委員)  
官澤 里美(山台弁護士会・法科大学院  
検討特別委員会副委員長)  
菅原貴与志(全日空法務部部長代理)  
高橋 信吾(七十七銀行監査部副部長  
兼法務課長)  
坪山 (鶴山台市監査委員)  
鶴沢正三郎(東北福祉大学教授)  
中村 (本学法学部教授)  
質疑応答

【問い合わせ先】

東北学院大学法学部・法学研究資料室  
TEL. 022-264-6406  
FAX. 022-264-6392

## 就職部より

### 企業の求める人材 - 豊かな人間形成を目指して -

本年度の企業の採用活動は、早期化の傾向に更に拍車がかかって3年次の春休みには本格的な選考段階に入る企業もあらわれています。しかも、4年次に進級しない段階での内定獲得という情報が入ってきています。日経連東京経営者協会の実施した新卒者採用に関するアンケート調査の集計結果の分析によると「企業側の採用動向も年々様変わりが激しく採用形態では通年採用職種別採用などを実施する企業が増え、多様化の傾向は一段と進んでいる。また企業説明会と採用選考会を別々に実施、または説明会選考会を複数回開催し、できるだけ多くの学生と出会う機会を上げようと工夫努力を重ねている企業も多数に上っている。こうした多彩な採用形態の導入は、各企業にふさわしい人材を発掘するチャンスを拡大し、より質の高い学生を厳選して採用しようとの意識の表れといえるだろう。また、企業は選考に際してどんな点を重視しているかをあらかじめ用意した選択肢から選んでもらったところ コミュニケーシ



ョン能力、チャレンジ精神、主体性、協調性、責任感、誠実性の順であった。総じて社会人職業人として不可欠な資質と人間性を重視していることがうかがえます。

「コミュニケーション能力を求めることは当然のことといえましょう。社会人として様々な人たちとの交流があり、これらの人たちとの意思疎通を図り、円滑に仕事を進めていく上で不可欠な要素であるからです。また「主体性と関連して特にこれからの時代に必要な能力は自立性」です。これは「社会や組織の中で調和を保ちながら、自らの責任のもとに物事を主体的に捉え、方向と課題を発見し対応していく能力です。求められる人材能力は高く、大学では入学時より自ら目的意識をもって学び、様々な活動を通じて自分を豊かに高めていく姿勢が何よりも必要となってきます。そのためにも、低学年からのキャリア形成指導などの支援を計画的・継続的に行うことを検討しなければなりません。

問い合わせ先 就職課  
TEL.022-264-6481

## 入試センターより

### 平成14年度の入試日程が決まりました

一般入試(前期日程)

- 2月1日 終夜(夜)機械工、応用物理
- 2日 (夜)人間科学、電気工、土木工
- 3日 (夜)法律、言語文化
- 4日 (夜)キリスト教史、情報科学

一般入試(後期日程)

- 3月7日 全学科専攻
- A0入試(第一次選抜の出願受付期間)
- A日程 1回目 8月29日 ~ 9月 4日
- 2回目 9月19日 ~ 9月25日
- 3回目 10月10日 ~ 10月16日
- B日程 11月28日 ~ 12月4日
- 推薦入試(学業・資格取得・キリスト者・スポーツ)
- 11月21日 全学科専攻
- 社会人特別入試
- A日程 11月21日 B日程 3月6日
- 編入学試験(A=一般・推薦、B=一般・社会人)
- A日程 10月11日 B日程 3月6日



問い合わせ先 入試課  
TEL.022-264-6455

### 東北学院大学

土樋キャンパス  
大学院:文学研究科、経済学研究科、法学研究科  
学部:文学部、経済学部、法学部各3・4年)  
文学部二部、経済学部二部  
〒980-8511 仙台市青葉区土樋一丁目3番1号  
TEL.022-264-6421 FAX.022-264-3030

### 多賀城キャンパス

大学院:工学研究科  
学部:工学部  
〒985-8537 宮城県多賀城市中央一丁目13番1号  
TEL.022-368-1116 FAX.022-368-7070

### 泉キャンパス

大学院:人間情報学研究科  
学部:文学部、経済学部、法学部各1・2年)  
教養学部  
〒981-3193 仙台市泉区天神沢二丁目1番1号  
TEL.022-375-1121 FAX.022-375-4040

### 東北学院中学・高等学校

〒980-0811 仙台市青葉区一番町一丁目9番1号  
TEL.022-227-1221(代) FAX.022-227-6302

### 東北学院榴ヶ岡高等学校

〒981-3105 仙台市泉区天神沢二丁目2番1号  
TEL.022-372-6611(代) FAX.022-375-6966

### 東北学院幼稚園

〒985-0862 宮城県多賀城市高崎三丁目7番7号  
TEL.022-368-8600(代) FAX.022-309-2655



ウーラノス

東北学院大学 広報誌 vol.7

### 広報誌編集委員会

委員長	総務担当副学長	関根 正行
副委員長	総務部長	飯土井公洋
編集長	宗教部長	佐々木哲夫
委員	文学部教授	遠藤 健一
	経済学部教授	小笠原 裕
	法学部教授	斎藤 誠
	工学部教授	星宮 務
	教養学部教授	片瀬 一男
	総務部次長	高橋 征士
	総務部調査企画課長	石井 勝雄
	総務部総務課長補佐	桔梗 元子
	総務部調査企画課係長	伊藤 寿隆
	総務部調査企画課	石上 貴繁

東北学院大学広報誌<sup>®</sup> (ウーラノス)<sup>®</sup>に関するご意見・ご質問をお寄せください。今後とも皆様のご期待に沿えますよう、編集いたします。なお発行日は、6月・10月・2月となっております。

発行日 平成13年2001年6月20日  
編集 東北学院大学 広報誌編集委員会  
発行 東北学院大学  
〒980-8511  
仙台市青葉区土樋一丁目3番1号  
TEL.022-264-6424 FAX.022-264-3030  
URL <http://www.tohoku-gakuin.ac.jp/>  
E-mail [c.kikaku@staff.tohoku-gakuin.ac.jp](mailto:c.kikaku@staff.tohoku-gakuin.ac.jp)  
印刷 (株)エイエイビー